



'みらいあさひ'の完成イメージ図(旭市提供)

旭市で、商業や医療、高齢者介護、市民活動などの各施設を一か所に集めた新たな街づくりが進んでいる。幅広い年代の市民が交流し、安心と生きがいを感じられる一大拠点を目指す。市は雇用の創出と人口減対策にも役立てたいという。

# 施設集約 旭に新たな街

## 旭中央病院に隣接 特養や移住者向け住宅も

新たな街は「みらいあさひ」と名付けられ、診療圏人口100万人を誇る国保旭中央病院に隣接する元農地3・5ヘクタールに建設中。国の「生涯活躍のまち構想」に基づいた開発で、市が土地造成や道路などのインフラ整備費として5億円を補助し、イオンタウン(本社・千葉市)など民間4社が建設、運営を行う。

商業施設のショッピングセンターのほか、複数のクリニックやフィットネスクラブなどが入る健康増進施設、定員80人の特別養護老人ホーム、移住者向け住宅が整備される。

ショッピングセンター内には、高齢者向けデイサービス施設や市の公共施設の多世代交流拠点「おひさまテラス」も入居する。同テラスは子ども向けの遊び場やサイクリング活動など

は、パートも含めて数百人

が行えるキッチンスタジオ、ダンススタジオ、テレワークにも使えるワーキングスペースなどを設ける。ショッピングセンターと健康増進施設は建設工事が始まっており、来春オープンする。特別養護老人ホームは県内で介護事業を行う楽天堂(本社・旭市)、移住者向け住宅は大和ハウス工業(本社・大阪市)が手がける。オープンは特養ホームが2023年度、移住者向け住宅が24年度を予定しているという。

施設の整備後は、デイサービス利用者が買い物を楽しんだり、特養の入居者が「おひさまテラス」で開催されるイベントに参加したり、高齢者の社会参加を促すことができる。旭中央病院が隣接することで高齢者も受けやすく、「みらいあさひ」内では、同病院医師による健康講座開催なども想定されている。

商業施設や高齢者施設で

規模の雇用が生まれるとみ

られ、市は人口流入効果に

期待している。

市の担当者は「生まれて

から老いるまで、人生で必

要とされるサービスを一定

程度享受できる街を目指す。高齢者施設を社会から

孤立させない」とも大事

と話している。

と話している。